

Ⅱ－３

高等部の実践

## Ⅱ－３ 高等部の実践

1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63
2. 実践Ⅰ platanus café（プラタナスカフェ） 作業学習・・・・・・・・・65  
「一周年感謝祭を盛り上げよう」
3. 実践Ⅱ クリーン工房 作業学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74  
「窓そうじ ～来校される方が気持ち良いと感じる学校にしよう～」
4. まとめ・・・82

## Ⅱ－３ 高等部の実践

### １. はじめに

#### （１）高等部でめざす姿

本校では高等部の３年間を「卒業後に自分が希望する生活の実現を目指して切磋琢磨する時期」と捉え、それぞれの生徒が毎日を充実して過ごせるように学習活動を行っている。

学校から社会へ移行するための準備期間ともいえる高等部におけるキャリア教育はライフキャリアを視野に入れつつも移行教育<sup>(1)</sup>に軸足を置いた教育になる。移行教育における本校の作業学習でめざす生徒の姿は「仕事に取り組むこと自体にやりがいを感じる」「まわりの状況に応じて、臨機応変に対応する」「共に働く生徒や社会人から学ぶ」というものである。

#### （２）教育課程の特徴

本校高等部では、表Ⅱ－３－１のように、「学ぶ」「働く」「暮らす」「楽しむ（余暇）」の４つのカテゴリで学習活動を構成している。

表Ⅱ－３－１ ４つのカテゴリでの学習活動

カテゴリ	各カテゴリでの活動	関係する教科等
学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の課題となる事柄に取り組む活動</li> <li>・身の回りの事柄について、教師や他の生徒と共に知ったり、調べたりする活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科学習</li> <li>・「課題学習」</li> <li>・「選択教科」</li> </ul>
働く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割を果たすことによって、他者から認められたり、喜ばれたりする活動</li> <li>・自分に合った役割や職業について考える活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業学習</li> <li>・産業現場等における実習</li> <li>・職業科</li> <li>・職場見学 等</li> </ul>
暮らす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の身の回りを整える活動</li> <li>・衣食住に関する知識や技術、態度を身に付けるための活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の指導</li> <li>・家庭科</li> <li>・保健体育科</li> <li>・掃除 等</li> </ul>
楽しむ (余暇)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の好きなこと、楽しいこと、面白さを追求する活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「趣味学習」</li> <li>・「ほんもの学習」</li> </ul>

このうち、「課題学習」「選択教科」「趣味学習」「ほんもの学習」は、本校独自の取組である。

### **(3) 今年度の取組**

本研究では作業学習モデルプランの充実、即ち校内資源に留まらず、社会との相互作用の中で実践的な作業経験を積むための作業学習の在り方について、実践を通して検討を行ってきた。

その中でキャリア発達支援を日ごろの学習活動の中にどう具現化するのか、そして実践的試みを通して生徒のキャリア発達の変化とそこでの教師の役割について考察した。

### **参考文献**

- (1) 国立特別支援教育総合研究所(2010)「知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究」P24

## 2. 実践Ⅰ platanus café（プラタナスカフェ）作業学習「一周年感謝祭を盛り上げよう」

### （１）教育課程における作業学習の位置づけ

本校高等部では、作業学習を週 10 単位時間、年間 350 時間 行っている。時間割上では、毎週火曜日と木曜日の 2 時間目から 6 時間目に行っている。集団編制を行う際には、作業活動での課題や生徒間の相性等を考慮し、生徒が高等部の 3 年間で 2 つ以上の作業種を経験できるようにしている。今年度は、菓子工房（クッキー製造班、パッケージ班）、クリーン工房、チャレンジ工房の 3 つの工房に分かれて取り組んでいる。3 つの工房とも、生徒のキャリア発達を促すために、校内資源に留まらず、社会との相互作用の中でより実践的な作業経験を積むことができるように取り組んでいる。

### （２）単元設定の理由

パッケージ班で運営している platanus café は、金沢大学医学図書館ブックラウンジにあり、コーヒーと紅茶、本校で製造しているすずかけクッキーを販売している。営業日は作業学習のある毎週火曜、木曜の 10：30～14：30 である。

platanus café が 10 月でちょうど開店一周年を迎えることとなった。そこで、日ごろのお客様への感謝を込め「一周年感謝祭」と題し、感謝祭に向けたイベントを考え、取り組む単元を設定した。また、高等部では 10 月の 1 か月間、作業月間として金曜日を除く週 4 日で作業学習を設定したこともあり、感謝祭の一環として営業日を通常の週 2 日から 4 日へ増やすことにした。

昨年度課題として挙げた「作業量の量的、質的向上」を踏まえつつ、生徒が普段体験することのない作業量や活動量、作業内容に向き合い、これらの活動に精一杯取り組み、お客様や仲間と普段より多くの時間接する中で、お客様への対応や仕事への姿勢、スタッフ同士の関わり合いに変化がみられることを期待した。

### （３）単元の目標

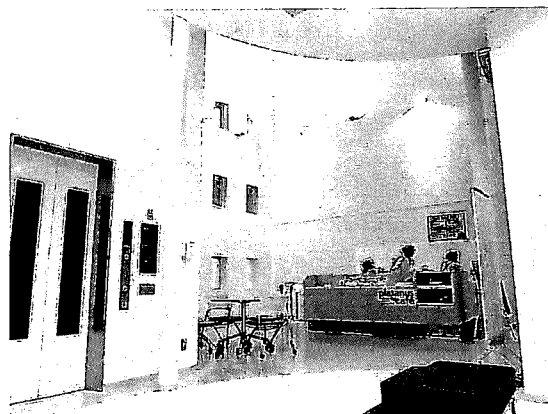
- ・ お客様をもてなし、感謝の言葉を伝える  
【関心・意欲・態度】
- ・ スタッフ同士協力し、一周年感謝祭のイベントを考えたり、取り組んだりする  
【思考・判断・表現】
- ・ イベントの内容をお客様に紹介したり、提供したりする【技能】
- ・ 限定商品を製造、販売する【知識・理解】

### （４）単元計画

総時数

89 時

第一次	一周年感謝祭のイベントを計画しよう	3 時	（ 9 月 3 日）
	一周年感謝祭のイベントを準備しよう	18 時	（ 9 月 8 日～10 月 2 日）
第二次	一周年感謝祭を盛り上げよう	68 時	（10 月 5 日～29 日）



platanus caféの様子



A男の仕事の様子

## （５）学習活動の様子

①対象生徒      A男（高等部２年）

### ②A男の実態

#### A男の実態

得意なこと	・ レジ打ち、おつりのやりとり、機械の操作
苦手なこと	・ 場に適した言葉を遣う、失礼な言葉を避ける、文字の読み書き
仕事への取組み	・ パッケージ班(カフェ)は２年目、リーダーを務めていてとても意欲的 ・ 「素人とは一緒にしたくない」とA男と同じような仕事ができない後任スタッフを責めてしまう
その他	・ 後任スタッフに教えたり、説明したりするときにきつい言葉になることがある ・ 余裕がない時など感情のコントロールがうまくいかず、他のスタッフに当たってしまうことがある ・ 自分がカフェ担当を外れたら、店が破綻するのではないかと心配している

### ③A男の単元の目標

- ・ 一周年感謝祭に取り組むにあたり、リーダー的役割を担う【思考・判断・表現】
- ・ 他のスタッフと協力し、限定商品を販売する【知識・理解】

### ④A男の学習活動の様子

#### A. 学習活動の概要

- ・ 一周年感謝祭の実施に伴い普段以上の集客を期待でき、活動量を確保できる。
- ・ カフェの営業日を拡大できる。

これら10月に設定できる環境を生かし、OJTを取り入れ、集中してトレーニングを実施した。

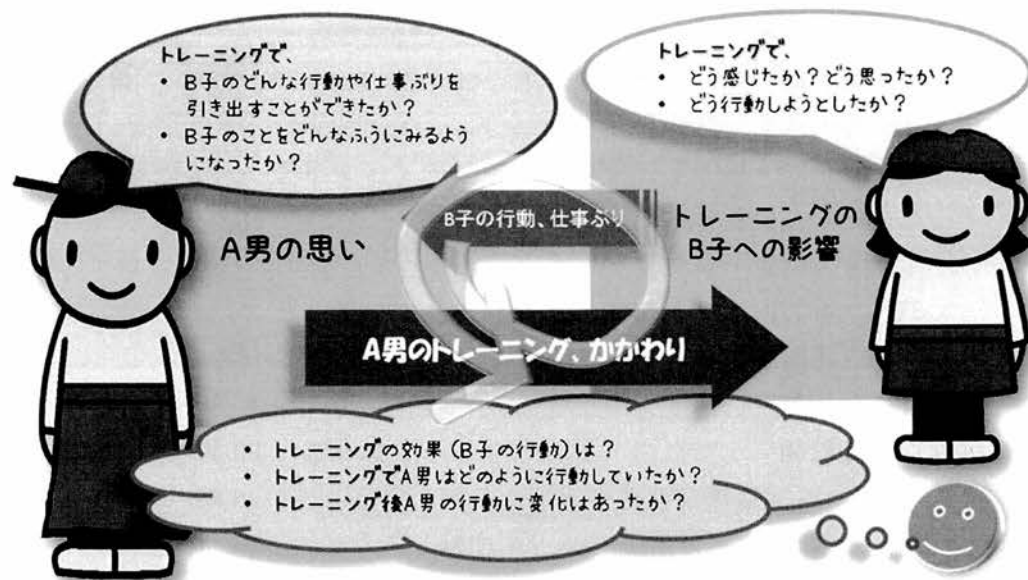
#### OJT※について

- ・ 実施期間：最終週（10月26日（月）～29日（木）の4日間）
- ・ 担当者：A男（事例生徒）、対象者：B子（所属一年目）

※OJT（On the Job Training：職場内教育）：上司（先輩）が部下（後輩）に、日常業務のなかで、仕事を通して、意図的・計画的に働きかけていく指導・教育。

#### イ. 実践の目的

トレーニングを通し「A男がB子に関わる」→「B子の評価をする」→「B子の様子から自分の関わりを客観視し振り返る」→



図Ⅱ－３－１ トレーニングにより目指す循環

「A男がよりよい関わりをする」という循環につながらないかと考えた（図Ⅱ－3－1）。そして、A男の行動の変化とともに、その背景にあるA男の内面の変化について、探ることにした。

#### ウ. 実践の方法

担当者のA男と対象者のB子両者にOJTシート（p71、参考資料）に記入してもらう。OJTシートは厚生労働省作成ジョブカードより項目を抽出し作成した。また、最終日には、トレーニングについてのアンケートに回答してもらった。シートと感想は、記入する負担を軽減し、「振り返る活動」に専念できるよう、選択式にした（一日の感想のみ自由記述）。

#### エ. 評価方法

OJTシート、アンケート及び生徒の行動や発言、加えて学校全体で取り組む〈様式2〉の表より評価する。

#### オ. 結果

以下はOJTシートとアンケートの結果及び生徒の行動や発言とそれらによる評価である。

##### （ア）A男のB子に関する知識の変化

A男のOJTシート

内容	4日目
頑張してほしいこと	体力
B子へ	かなり頑張っている

A男のアンケート

質問	答え
楽しかったこと	なかま
自分の良いところ	体力がある
自分の仕事の良いところ	自分からする
B子に頑張してほしいこと	自分から仕事をする

A男の実施後の感想で“B子に頑張してほしいこと”に“自分から仕事をする”と答えている。これはA男の“自分の仕事の良いところ”であり、以前のようにB子を“一緒に仕事をしたくない素人”として捉えるのではなく、努力次第で自分と同じような仕事ができる仲間ととらえるようになったと考えられる。そのことは、“楽しかったこと”に“なかま”と答えている点からも伺える。

##### （イ）A男の行動とB子の表現と行動

##### エピソード～レジ打ちのロールプレイング

レジ打ちのロールプレイングでは、A男はお客様役に率先して取り組んだ。最初B子は照れてしまい、笑ってしまったり、レジ打ちが遅れてしまったりした。A男はそんな様子を批判せず、2度、3度と繰り返した。購入して見せるクッキーやコーヒーの種類を変えるなど、A男なりの工夫をしながら真剣な態度でB子にトレーニングを行った。B子の態度もすぐに改善された。ロールプレイング後、『レシートはご利用ですか？』って言った方がいいよ。』と、改善点を具体的に伝えることもできていた。B子は、その後来店されたお客様にすぐに実践できていた。

### B子のOJTシート

	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目
A 男さんへ	優しくった	優しくった	優しくった	優しくった
	もっとうまくなるぞ！	もっとうまくなるぞ！	楽しかった	もっとうまくなるぞ！
一日の感想	疲れが取れてない シンドイけどたのしい	今度間違えないように頑張る 途中でふらついたけど逃げないで 頑張れた	少し慣れた 楽しかった	シンドイ 頭痛いけど楽しい

### B子のアンケート

質問	答え
A 男の良かったところ	優しい
A 男の変わったところ	分かりやすい

A 男のロールプレイングに対し、B 子は真剣に取り組むことができた。B 子ができるように改善点を具体化して伝えることもできた。また、OJTシートやアンケートからも分かるが、B 子の A 男に対する印象は好意的であり、“逃げないで頑張れた”といった、前向きな姿も引き出すことができたと考えられる。

#### (ウ) B 子の思いの変化

### B子のOJTシート

	1 日目	2 日目	3 日目	4 日目
もっと頑張りたいこと	コーヒー	レジ	コーヒー	協力、手伝い

### B子のアンケート

質問	答え
教えてもらうときに気を付けたこと	仕事を止めて聞く
自分の仕事のもっと良くしたいところ	手伝う

OJT最終日、“もっと頑張りたいこと”に“協力、手伝い”と、また、アンケートの“自分の仕事のもっと良くしたいところ”に“手伝う”と答えており、A 男は B 子に他のスタッフに協力しようという意識を芽生えさせる関わりができたと考えられる。アンケートの“教えてもらうときに気を付けたこと”には“仕事を止めて聞く”と答えており、話を一生懸命聞こうとする態度を引き出すこともできていたと考えられる。

#### (エ) A 男の思いの変化

### エピソード～「それが一番大事や」

B 子が時折見せる場にそぐわない態度について、周りに与える印象の悪さや、不信感について説明したことがあった。それを聞いていた A 男は「それ（信頼してもらうこと）が一番大事や。」「大事にしんとだめや。」と繰り返し B 子に伝えていた。

### A 男のアンケート

質問	答え
教えるときにうまくいったところ	どうしたらできるか考える
自分がしたいこと	練習に付き合う

A 男の発言から、態度や発言などが周りに与える影響を考え、信頼を得ようとする意識が芽生えていることがうかがえる。これは、彼の学校生活上の課題であった「遅刻をしない」ことにも



つながっており、実際に改善が見られている。

アンケートでは“教えるときにうまくいったところ”に“どうしたらできるか考える”と答えている。トレーニング中にも「これやったことある？」といった声かけをする等、できないことを責めるのではなく、B子とのやり取りを重ね、B子がどこまで知っているか確認しながら、言葉を選びトレーニングにあたる場面も見られた。

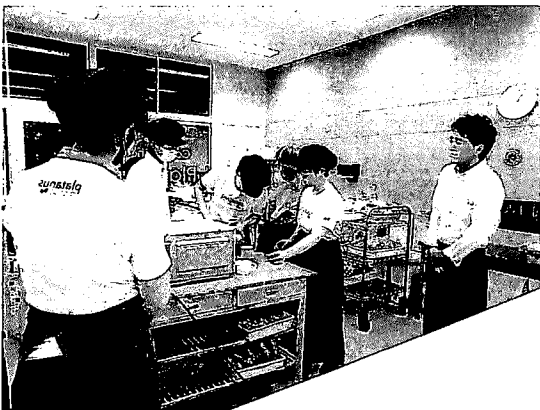
また、“自分の仕事の良いところ”に“自分からする”、“(他の人ができるようになるために)自分がしたいこと”に“練習に付き合う”と答えており、教えられる立場から、教える立場として自分を認識していることがわかる。

## ⑤評価と考察

### ア. A男の単元の目標及び単元を通してのキャリア発達について

配属1年目の生徒も4月よりカフェ運営の経験を重ね、仕事についてある程度把握し、顔見知りのお客様もできてきた2学期に本単元を実施できたことは、イベント内容の考案や飾り作り等、生徒の意見を引き出すために有効であったと考えられる。また、活動のベースに感謝祭を設定したことは、生徒の意欲的な姿に結びついたと考えている。

A男はカフェ開店当初から本作業班に所属している生徒であり、カフェへの思いも強い。繰り返される「僕が(現場実習に出ていて)いない時、店大丈夫?」「来年(僕が他の作業種に変更になったら)大丈夫?」といった発言からも、その思いを読み取ることができる。一方で、A男の内面に「他のスタッフは仕事ができない」「自分は他のスタッフより仕事ができる」といった自己認識が存在し



新商品開発風景

ていたとも考えることができる。しかし、今回の取組を経て、他のスタッフに対し「仲間である」という認識を持つようになった。「頑張ったらできる」という知識を持ち、そのために「練習に付き合う」「どうしたらできるか考える」ことをしたらよいという知識にもつながった。他のスタッフに「自分と同じように仕事をできるようにしてほしい」という要求であるとも捉えることができるだろう。この変容は、今回のイベントや新メニュー開発で「分からないことできないことのあった自分」を思い出し、他のスタッフとともに新しい仕事に挑戦できたことも有効だったのではないだろう

うか。これらの点からも単元設定や目標について、A男の現状に適していたと考えている。

### イ. 単元設定及び授業の展開について

今回の取組では、OJTシートやアンケートを利用した。利用の方法として「A男の自己評価とB子の他者評価をすり合わせる」のではなく、「A男のトレーニングの効果や関わり方に影響を受けるB子について評価することで、自らを振り返る」ことができるようにした。この方法はA



一周年感謝祭の様子

男にとって目に見えにくい自分でなく、目に見えるB子を評価するということとなり、分かりやすく、回答しやすかったようである。A男が自分の苦手さを自覚する中、素直に振り返って表現することができ、トレーニング担当者としての自尊心を保つことにもつながったと考えられる。

OJT終了後、B子以外の後任生徒にも「モップかけたら?」「～の面倒見る?」など、先任リーダーとして積極的に取り組む発言がみられており、A男の「自分が他のスタッフを助け、育てる立場である」という自己認識の変化が行動の変化を生んだ結果であると考えられる。A男の変容はさらに他のスタッフの変容につながり、さらに好循環につながっていくことが予想される。

## ウ. 課題

### (ア) 評価項目の妥当性について

当初、「回答そのもの」による評価でなく、「回答すること」によりA男の行動の変化を目指していた。そのため項目や内容の妥当性についての検証までには至っていないにもかかわらず、回答内容を評価材料の一つと捉え、結果的に評価に利用せざるを得なかった。生徒の回答から評価をする場合、項目や内容、記述のタイミングなど、さらに精査を重ねる必要があると考える。

A男のトレーニングはB子の思いや行動に影響を与えることができた。また、それが、A男の内面に変化をもたらし、さらに行動の改善につなげることができたと考えられる。しかし、トレーニング中で行われた「A男のどのような働きかけや発言が、どのようにB子に影響を与えたか」といった点について具体性が低く、評価、分析するには不十分であったと考えられる。〈様式2〉の利用の仕方や内容を再考し、教師の働きかけや支援に伴う生徒の行動、そして内面の推察について、継続的に記録していく必要性を感じている。

### (イ) 最後に

自動販売機ではなく「人の手のかかったものがほしい」という医学図書館の思いから、platanus café は始まった。スタッフとして未熟な点があったとして、万が一ご迷惑をおかけすることがあったとして、スタッフ一同心よりお詫び申し上げ、その気持ちを伝えられるような接客であってほしい。「人の手をかけて」おもてなしすることに誇りを持ち、お客様はもちろんのこと、仲間であるスタッフを大切に、「人」や「人とのかかわり」から成長できる人であってほしい。それが platanus café ならではの学びであると考えている。生徒が自ら学ぼうとする姿を引き出し、学ぶ機会を十分提供できるような支援や場面づくりを目指したい。

	26 (月)	27 (火)	28 (水)	29 (木)
なにについて				
どんなふうに				
てんすう				
もっと				
がんばりたいこと				
A男さんへ				
E子さんへ				
かんそう				

しつもん	こたえ	そのたなんでも
たいへんだったこと		
たのしかったこと		
A男さんのよかったところ		
A男さんにがんばってほしいこと		
A男さんの かわったところ		
おしえてもらうときにきをつけたこと		
おしえてもらうときにうまくいったところ		
じぶんのいいところ		
じぶんのかわったらしいところ		
じぶんのしごとのよいところ		
じぶんのしごとのもっとよくしたいところ		
ほかのひとにがんばってほしいところ		
そのためにじぶんがしたいこと		

B子に対するアンケート

	こたえ	そのたなんでも
たいへんだったこと		
たのしかったこと		
E子さんのよかったところ		
E子さんにがんばってほしいこと		
E子さんの かわったところ		
おしえるときにきをつけたこと		
おしえるときにうまくいったところ		
ほかのひとのトレーニングもしたい		
じぶんのいいところ		
じぶんのかわったらしいところ		
じぶんのしごとのよいところ		
じぶんのしごとのもっとよくしたいところ		
ほかのひとにがんばってほしいところ		
そのためにじぶんがしたいこと		

A男に対するアンケート

月日	教師の手だて・支援	児童生徒の学習活動の様子 (A男)	A男の内面(推察)			
			要求	知識	自己認識	自己効力感
1学期	教師の手だて・支援 一周年イベントは何をする？	児童生徒の学習活動の様子 (A男) 「メニュー新しいのしないの？」	さらに新しい活動に取り組みたい	ほかのお店では売っている	今のメニューは覚えた新しいメニューに挑戦できる	ミーティングで
		「僕がいなかったら、店大丈夫？」	他のスタッフにも、店を任せられるようになってほしい	他のスタッフは、僕ほど仕事をできない	僕は、一人でも店を切り盛りできる	日常的に
9月8日	日子と協力してクッキーの陳列をしてもらう	万重を棚にしまいう時支えてあげる	助けてあげたい 助けられる人になりたい	大変そうな人は助けてあげる クッキーが割れたら大変	女の子よりは力がつよい	日子との関わり
	シフトが一緒の後輩との会話を仲介する	「かごふいて」など、仕事を振る	仕事をしてほしい	(相手が行動する姿を見て)話を伝えることができる	自分は仕事を伝える立場である	他スタッフとの関わり
9月17日	「なんかないへんそう」生徒の様子を見てつぶやく	コーヒーにいたが、レジにフォローに行く	助けてあげたい 助けられる人になりたい	分からないときは一緒にしたらよい	レジはわかる	他スタッフとの関わり
10月6日	教師が離れ、生徒二人で勤務してもらう	「おれ、面倒みる？」	空いている時間に仕事に取り組んでほしい 仕事を覚えてほしい	後任生徒は、まだ仕事を覚えていない	自分は仕事を伝える立場である	他スタッフとの関わり
	「コーヒーの発注行ってる？」	業務時間内に行ってくださることができるよう、すぐに向かう 他のスタッフを連れて行ってくれる	他のスタッフにもコーヒーの受け取り場所を覚えてほしい	コーヒーの受け取り場所は、知っている人に連れて行ってもらって覚えていける	最初は知っている人と一緒に行ったら覚えられた	他スタッフとの関わり
	(常連さんに対し) ため口で話したり、掃除の仕方が雑であることを注意 どんな理由があってもお客様に失礼のないように伝える	午前中は耐えると決める 態度はあらたまる 午後は、ミーティングで身内だけというこどもあり脱力して勤務する	疲れているから気を使って話したくない	自分は疲れると、イライラする お客様に失礼に接してはいけない	疲れてきている 今の自分は態度が悪かった	ミーティングで とりあえず午前中はセルフコン トロールできた
10月26日	トレーニングをしてもらう	日子の仕事をよく見ている 「相手に聞こえるように話す」よりも、「大きな声を出す」ように伝える	上手になってほしい 他のスタッフにも声を出してほしい	明るい声で話したほうがいい 自分で思っているより大きな声で話した方がいい	実習先で大きな声でお客様をお迎えすることができた 「なんで実習先では大きな声がもっと簡単に出了んだらう？」	大きな声で接客できる 日子との関わり

月日	教師の手だて・支援	児童生徒の学習活動の様子 (A男)	A男の内面(推察)				その他
			要求	知識	自己認識	自己効力感	
10月26日	実習の話を他のスタッフを交えて聞く	「B子も行ってみたら?」 「練習すれば大丈夫じゃない?」	自分と同じように仕事をしてほしい	自分と同じような仕事をできるようになる	自分は練習して、できるようになった	精一杯実習に取り組んでいた	他スタッフとの関わり
	教師は別の仕事をしている	「仕事させたほうがいい?」 できる仕事を見つけて、教えようとしている	面倒を見たい 仕事をしてほしい	自分と同じような仕事をできるようになる	自分は面倒を見る役目である	仕事を教えることができる	他スタッフとの関わり
	トレーニング レジの練習に付き合ってもら	クッキーは二つ渡しておいたが、自分で判断して、コーヒー(ページク)を加えて注文してくれる	たくさん注文も間違えずに受けられるようになってほしい レジ打ちを覚えてほしい	お客様はコーヒーとクッキーをまとめて購入されることが多い 繰り返し練習したほうがよい			B子との関わり B子は照れてため A男は真剣
	トレーニング 一日勤務	B子を励ます キレなかった	元気を出して頑張ってもらいたい	しんどい時は助けてあげる	落ち込んでいる人や、元気がない人は心配でならない		B子との関わり
10月27日	トレーニング レジを任せる	「レシートはご利用ですか?」って いったほうがいいよ~	丁寧な言葉で、言えるようになってほしい	それに対するA男の返事は「あーい らんわ」(誤学習) 好ましい言い方でないことを知らない	気さくに話している		B子との関わり B子はこの直後からお客様への声の大きさや態度が変えた
10月28日	トレーニング レジを任せる	「助けたのわかった?」 一人でできるようになったほうがいいよ」	一人でできるようになってほしい	挑戦してみると、できるようになることもある	「代って」やってみる」と自ら名乗り出て練習してきた		B子との関わり
	トレーニング レジを任せる	B子から少し離れて、一人でやってもらいながら、他の仕事をする 時折振り返り様子を見る	一人でできるようになってほしい	自分で練習しなくちゃ一人でできるようにならない	大人の休憩中など、一人で店を任されながら上達した	大人の休憩中など、一人で店を任されることができている	B子との関わり
	B子の不機嫌な様子を説明 「疲れているとか、困っているとか」とかというのかわかるけど、ものすごくふてくされた顔になっちゃうから、お客様に誤解されちゃうよ。信頼してもらえなくちゃうよ。」	「それが一番や、それが一番大事や」	周りの人に信頼されるようになりたい い なってほしい	自分の言い回しや態度、行動によって、本来の意図とは違った評価をされてしまうことがある 普段頑張っている評価が下がったり、怒られたりすることがある	自分は周りの人に信頼されない言い回しや態度をすることがある 遅刻しがちで不信感を持たれてしまう	教えてもらえば直せる 「知らなかった」 「そうは思わなかった」 「すぐできるよ」 「もうしない」	B子との関わり
10月29日	最終アンケート	「俺優しかった? 優しくないよ」	がんばってほしかった	B子はつらそうな時もあったのに、頑張らせてしまった つらい顔をさせてしまうのは、優しくないこと	自分は優しくない	どうしたらできるかは考えることができた	B子との関わり
10月30日	学習発表会のシフト組	2番目のシフトを選ぶ	少し楽をしたい	開店時は人が多すぎる	切羽つまるし、ほかのところも回りたくない		ミーティングで
	先輩は2コマしてたわと褒めかしむ	2コマはいる 「Tさん(先輩)と一緒にする」	前のリーダーぐらいの仕事をしたい	2年目でリーダーだし、それらしい仕事をしてお客さんがたくさん来て大変	自分がいたらたくさんのお客さんにも対応できる		ミーティングで

### 3. 実践Ⅱ クリーン工房 作業学習

「窓そうじ ～来校される方が気持ち良いと感じる学校にしよう～」

#### (1) 単元設定の理由

クリーン工房では、学校敷地内の環境整備や校内の美化を主な作業種としている。平成 26 年度より、金沢大学に技能補佐員として雇用されている障害のある社会人 2 名と一緒に、作業学習を行っている。

平成 26 年度は、社会人をモデルとして、「卒業後の生活を具体的にイメージし、目標を持って作業に取り組むこと」と「社会人の働き方にふれ、働く上で必要な態度や気持ちを知ること」を目標に取り組んできた。しかし、社会人と協働することの目的や社会人から何を学ぶのかを明確にすること、そして社会人と生徒との関係づくりが不十分だったために、十分に目標に迫ることができなかった。

平成 27 年度は、前年度の実践を踏まえて、次のように改善して取り組んだ。

- ・社会人との協働作業を単元化し、時数と作業種を限定する
- ・ミーティングを計画的に行う

作業種は「窓そうじ」を選択した。理由は、作業手順が明確で作業の成果が分かりやすいということ、来校者をお迎えするためという目的が明確であること、天候に左右されずに見通しを持って取り組めることである。

ミーティングのテーマについては、表Ⅱ－3－2に詳述するが、生徒自らが卒業後の生活をイメージして作業学習に取り組むことや、窓そうじという作業を通して自分について考えることができるように計画した。今年度新たに自分について考えるテーマを取り入れたのは、生徒自ら活動の目標を決定する際に、活動についての理解とその活動に対する自分の能力の理解が必要であると考えたからである。生徒が目標を決定するためのプロセスを丁寧に行うことで、活動の振り返りで行う評価が生徒にとって意味のあるものになると考える。学習を通して自分理解を深めていくことはキャリア発達の視点からも重要なことであると思われる。

#### (2) 単元の目標

- ・働いて収入を得て生活する社会人の生活ぶりを知る【知識・理解】
- ・自分の卒業後の生活を考える【思考・判断・表現】
- ・自分の目標を決め、意識して作業に取り組む【関心・意欲・態度】
- ・窓そうじに必要な知識やスキルを身につける【知識・理解】【技能】

#### (3) 単元計画

総時数 85 時

第一次	基本技術の習得と働くための力をつける（1 学期）	15 時
第二次	自分に必要な力を考えて取り組む（2 学期）	35 時
第三次	目標を明確にして意識して取り組む（3 学期）	35 時

※窓そうじの単元は、社会人のメンバーを変えながら、同じ内容で各学期に 1 回、年 3 回繰り返して行う。

#### （４）学習活動の様子

##### ①対象生徒 C男（高等部２年）

##### ②C男の実態

１年時は菓子工房に所属し、クッキーの製造を行った。今年度よりクリーン工房の所属となった。説明やモデリングにより作業内容やミーティングの理解が可能である。また、体験していない事柄も既存の知識や新しい情報を基にイメージすることができる。一般就労を希望し、卒業後の生活について漠然とした理解はあるが、具体的なイメージや目標は持っていない。作業面では、指示されたことは真面目に取り組むが、動作が遅く、表情が乏しいために無気力な印象を受ける。体の使い方や道具の使い方が不器用で運動経験の未熟さや体力の低さ、筋力の弱さが感じられる。

今年度のクリーン工房のメンバーは、C男の他に、１年生が２名、３年生が２名（前年度から継続して所属している）で、社会人は２名ずつ学期ごとにメンバーを変えて参加する。

##### ③C男の単元の目標

- ・自分の卒業後の生活を具体的に考える【思考・判断・表現】
- ・自分の目標を決め、意識して作業に取り組む【関心・意欲・態度】
- ・効率よく作業を行うために社会人と協力して取り組む【知識・理解】【技能】

##### ④C男の学習活動の様子

今年度は窓そうじを単元化し、社会人との協働作業を行った。ミーティングでは生徒が「自分に対する理解」を深めることを従前の目的に加えて取り組んできた。年間を通じたミーティングの実施計画を表Ⅱ－３－２に示す。次ページからは、ミーティングでのC男の言動について主に述べる。

表Ⅱ－３－２ 「窓そうじ」単元でのミーティング実施計画

			テーマ	配時
第一次	4 月	ミーティング	クリーン工房の年間活動について	1 時
	5 月	ミーティング	社会人と協働の目的	1 時

			テーマ	配時
第二次	10 月	ミーティング 1	社会人の生活を知ろう	2 時
		ミーティング 2	「わたし」の卒業後の生活	1 時
		ミーティング 3	窓そうじに必要な力 自分の得意・苦手（自己評価 1） 自分の目標	2 時
		窓そうじ～来校される方が気持ち良いと感じる学校にしよう～		12 時
		ミーティング 4	中間総括（自己評価 2）目標の見直し	1 時
		窓そうじ～来校される方が気持ち良いと感じる学校にしよう～		12 時
		窓そうじ～附属幼稚園の窓をきれいにしよう～		4 時
		ミーティング 5	ふりかえり（自己評価 3）	1 時

			テーマ	配時
第三次	2 月	ミーティング	一年のふりかえり	1 時

ア. 卒業後の生活を具体的にイメージする（ミーティング１・２）

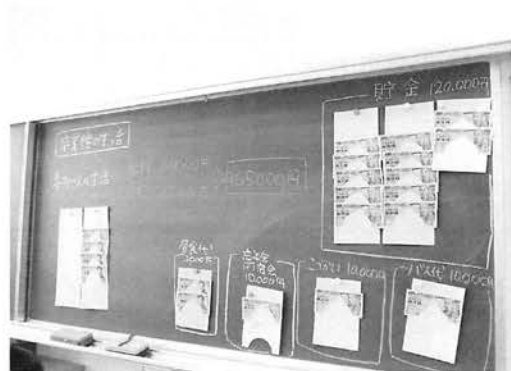
ミーティング１・２は、一緒に働いている身近な社会人がどんな生活を送っているのかを知るために行った。本物のお金を準備し、社会人が毎月もらっている金額や、何にどれだけのお金を支払っているのかというお金の流れを生徒たちに提示した。10万円を目にした生徒たちは、とても興味を示して話を聞いたり考えたりしていた。C男は、「社会人の生活」というテーマでの２回のミーティングで、社会人の給料と年金収入と消費生活の様子（表Ⅱ－３－３）を知り、自分が思い描く卒業後の生活を実現するためには、一か月 10 万円程度の収入が必要であることを理解した。また、表Ⅱ－３－４のように、社会人と同様に卒業後も同居する親に食事代や水光熱費などを支払ったり、貯金をしたり、余暇を楽しんだりすることを考えた。特に自動車に興味を持つC男は、自動車免許を取得すること、自分で自動車を購入することを目標として働きたいことをミーティングで話した。頑張ってお金を貯めれば車を購入することも可能であることを知ったC男は、「卒業後に楽しい生活がしたい。卒業して働くために今の作業学習がある。」と答えており、何のために働くのか、働くためには自分に何が必要なのかということを意識し始めた様子が見えてくる。

表Ⅱ－３－３ 社会人Dさんの生活

一か月の給料は？	90,000 円
給料以外の収入は？	64,000 円
Dさんはどのようにお金を使っているのだろう？	
通勤定期	10,000 円
弁当代	5,000 円
家に入れるお金	20,000 円
ゲームセンター	20,000 円
カードゲーム	10,000 円
床屋	1,000 円
おやつ代	2,000 円
貯金	86,000 円
楽しんでいることは？	ゲームセンター

表Ⅱ－３－４ C男が考えた卒業後の生活

1 か月の給料は？	100,000 円
こづかい	10,000 円
バス代	5,000 円
携帯代	10,000 円
貯金	30,000 円
昼食代	5,000 円
家に入れるお金	40,000 円
卒業後どんな生活をした いですか？	車の免許をとりたい、 車を買いたい



ミーティング１「社会人の生活」の様子



## イ. 窓そうじの仕事と自分について考える（ミーティング 3・4・5）

高等部では、10月に作業月間を設けて、金曜日を除く週4日間、作業学習を行った。クリーン工房では、作業月間のうちの2週間を窓そうじ強化期間とし、11月の学習発表会に向けて校内美化に取り組んできた。ミーティングは、強化期間前、強化期間の中間総括、強化期間後の振り返りの3回行い、「窓そうじに必要な力」と「窓そうじの作業」に対する自己評価を行った。3回のミーティングでは、社会人を交えて、窓そうじを仕事として行うために必要な力と、窓そうじの手順について考え、それぞれについて自分の力を5段階評価した。

3回のミーティングでのC男自身の評価は、表Ⅱ-3-5のとおりである。C男は、自己評価1では、十分に考えることなくすらすらと評価を表に記していたが、自己評価2、自己評価3では、窓そうじに必要とされる力やスキルと自分ができたこととを照らし合わせながら、各項目について時間をかけて評価している様子が見られた。それは、C男が窓そうじを繰り返し行うことによって、作業内容や手順、要求される仕上りの理解を深めたこと、窓そうじの作業中に教師がミーティングで確認した力やスキルについての振り返りを行うような言葉かけを意識的に行ったことが、好影響をもたらしたのではないかと思われる。また、C男にとって困難な作業である高所の窓そうじを、社会人と一緒に行い、社会人をモデルとして自分を評価できる場面を作ったことが影響したのではないかと推察される。

表Ⅱ-3-5

窓そうじの仕事をするために必要な力とそれに対する自己評価

必要な力	自己評価1 (ミーティング 3)	自己評価2 (ミーティング 4)	自己評価3 (ミーティング 5)
集中力	4	5	5
持久力	4	5	4
忍耐力	3	3	
体力	4	4	5
正確さ	4	4	4
協力性	3	3	5
速さ		4	4
気持ち		3	4
体調管理		4	5

5 = 身についた 4 = だいたい身につけている 3 = 普通  
2 = あまり身につけていない 1 = 身につけていない

表Ⅱ-3-6 窓そうじの作業手順とそれに対する自己評価

作業手順	自己評価1 (ミーティング 3)	自己評価2 (ミーティング 4)	自己評価3 (ミーティング 5)
1 バケツに半分水を入れる	○	○	△
2 洗剤を入れる（少量）	×	○	△
3 白ぞうきんをぬらす、しぼる	○	○	○
4 白ぞうきんで窓わくをふく	△	○	○
5 ウォッシャーでガラスをふく	○	○	○
6 スクイジーで横に水をきる	△	△	○
7 スクイジーでたてに水をきる	△	△	○
8 色ぞうきんで窓わくをふく	△	○	△
9 確認する	△	○	○

○ = できた △ = だいたいできた × = できなかった



高所の窓そうじに取り組むC男と社会人



窓そうじをするC男

## ⑤評価と考察

### ア. C男の単元の目標及び単元を通してのキャリア発達について

#### (ア) 単元の目標について

- ・ 社会人とのミーティングを通して、一ヶ月の生活に必要な経費や給料の他に障害基礎年金収入があることを知った。自分が希望する額の給料を、生活するための経費として振り分ける中で、いずれは自動車免許の取得と自動車を購入したいという希望を明確にした。また、希望を叶えるために、現在の学習課題に取り組む必要があることを理解した。
- ・ 窓そうじに必要とされる力とスキルと現在の自分の力について考え、具体的な目標を考えることができた。社会人と一緒に作業する中で、自分の目標を意識して作業に取り組むことができたが、社会人と協力して効率よく作業を行うまでには至らなかった。しかし、社会人の作業の速さや正確さをモデルとして向上しようとする姿が見られた。

これらのことから、C男は単元の目標に概ね迫ることができたと考える。

#### (イ) キャリア発達について

- ・ C男はミーティングで、社会人の給料と消費生活を知り、自分の卒業後の生活について考えた結果、希望する卒業後の生活のイメージをつくることができた。また、ミーティングの中で、「働いて給料をもらう生活がしたい。」「卒業後は楽しい生活を送りたい。」「そりゃあ、10万円欲しいですよ。」と発言している。自分の卒業後の生活を具体化したことが、現在の学習の意味を見いだすことにつながり、学習活動に意欲的に取り組むようになった。新たな知識をもとに、将来をイメージし、実現に向けた目標を設定して作業に取り組むことができたのである。
- ・ 「窓そうじ」作業を行うために必要とされる力やスキルという具体的な項目に対して、自分の現在の力を考えたことは、「自分について考える」経験となり、作業に対する具体的な目標設定や卒業後の生活に向けた課題に気づく機会となった。C男は、「働くためにはもっと体力をつけな」と。「作業に自信がついたらもっとできることがあるかもしれない。」などと作業を通して自分について振り返っている。
- ・ C男は、最初のミーティング時に、クリーン工房の仕事の意義について、「近所の人や学校の人たちのために役立っている。」と発言している。しかし、同時にクリーン工房に所属したことについて否定的な発言もあった。初めての作業に不安があったことや除草などの屋外作業への忌避が理由だと思われるが、学習活動を通じて、「スクイージーの使い方が上達してきている。」「窓そうじの力と自信がついた。」「作業スピードがあがってきた。」など、作業活動について上達、向上している自分を感じることができた。また、「クリーン工房で作業をしているとたくさんの人から声をかけてもらえる。」「1学期に比べて褒められることが多くなった。」と感じてい

て、他者からの賞賛、慰労、感謝の言葉に自己効力感を高めている。さらに、「仕事に慣れてきたら自分も働くことができるかもしれない。」「自分もやればできるかもしれない。」と自分の将来の展望に対しても肯定的にとらえつつある。

## イ. 単元について

前年度の取り組みを踏まえて社会人との協働作業を単元化し、同じ内容の単元を繰り返した。また、社会人と協働する意味を知り、社会人をモデルとする関係づくりや生徒自身が卒業後の生活をイメージできるように計画的にミーティングを実施した。さらに、生徒が自らの目標を立て、それを評価するために、作業のアセスメントに生徒を関与させ、窓そうじという具体的な作業を通して自分について考えるようにした。

これらの改善は、C男の変容からも「卒業後の生活を具体的にイメージし、目標を持って作業に取り組むこと」「社会人の働き方にふれ、働く上で必要な態度や気持ちを知ること」「生徒が自分についての理解を深めること」に有効であった。

特に、ミーティングを計画的に実施したことは、生徒が他者の考えを知り、自分の知識や思いを修正したり再構成したりしながら作業の意味や自分の能力の理解を深めた。学習を通して自分について考え、理解を深め、そして自分を受け止めていく経験を積むことは、生徒の成長にとって重要な視点であると考え、その方法について今後も検討していく必要がある。

行事に合わせて「来校される方が気持ち良いと感じる学校にする」という単元の目標は、生徒の学校生活に沿った具体的な目標となり、期限が決められた中で目標を持って作業を行う動機づけとなった。また、「窓そうじ」という題材は当初の仮定通り、作業手順が明確で作業の成果が分かりやすく、社会人と生徒の関係づくりや事後の振り返りが容易であった。

単元のまとめの作業として、金沢大学附属幼稚園に出かけて窓そうじを行った。これまでに培ったスキルを校外で実践し、外部者から成果に対する感謝と慰労の評価をいただいたことは、生徒の自己効力感を高める上で効果的だった。クリーン工房で継続して作業を行いたいと発言した生徒は、その理由に「好感度がアップするから」と述べている。クリーン工房の作業は校内や地域の方から感謝や慰労の言葉をかけられることがあるが、この生徒はこの事に作業の喜びと意欲を感じたのであろう。

C男をはじめ、他の生徒の変容から、単元の目標設定、窓そうじという内容、社会人との協働を取り入れたことやアセスメントに生徒を介入させたこと、ミーティングを中心に振り返りを行い自己評価や相互評価を行ったことは、妥当性があり、有効であると評価できる結果であった。



大学附属幼稚園での窓そうじの様子



くっきりと空がうつる本校玄関上の窓

月日	教師の手だて・支援	C男の学習活動の様子	C男の内面(推察)				その他
			要求	知識	自己認識	自己効力感	
6月4日	・ミーティング クリーン工場の作業を体験してどう思いますか？	・暑い中だったけどなんだかんだいいながら頑張った ・いやいや半分だったの一年間やり通せるか不安 ・少しだけ違う工房に行きたい	・違う工房に行きたいかも	・クリーン工場の作業はつらく大変そうだし嫌だな ・クリーン工場の仕事は近所の人や学校の人たちのために役に立っている	・やり通せるか不安 ・体力も不安	・暑い中でも作業頑張った	・これからどんな作業があるのか不安
6月18日	・ミーティング やる気レベルが上がらないのは何故？	・実際に窓そうじをやってみただけどやる気レベルはあがらない。(5段階評価で3・5)		・窓そうじの手順と道具の名前はわかった	・やりたいうってわけでもないしやりたくないわけではない	・実際にやってみたらできないわけではなかった	
7月16日	・ミーティング1 社会人の生活を知る① (実際にもらっている金額を並べて見せた)	・ほんもののお金を見てびっくり ・社会人がゲーム代2万円使っているって聞いてさらにびっくり	・自分も10万円くらい欲しい。そうじゃないと自分の好きなことができない。 ・土日には色々遊びたい	・社会人は毎月10万円以上のお金がもらえる ・給料以外に年金というものももらえるらしい	・今の自分にできることは作業を頑張る、手伝いをする、体力をつける、実習を頑張る		・自分は2万円もゲームに使う勇気はない・・・ ・社会人と生徒の違いは労働と勉強
9月29日	・ミーティング1 社会人の生活を知る② ・ミーティング2 自分の卒業後の生活も考える	・卒業後お金を貯めて免許をとりたい、車も買いたいと発言 ・自分なら10万円をどう使うか一生懸命考えている	・車の免許がとりたい ・貯金して車も買いたい	・新車は高いのでまずは中古車からでいいかな	・もしかしたら免許が取れるかもしれない ・車を買うことも乗ることもできるようなになるかも・・・		
10月5日	・ミーティング3 窓そうじの仕事と自分の得意なところ苦手なところを覚えて目標を立てる	・窓そうじには忍耐力が必要		・窓そうじの手順は覚えていく			・忍耐力が必要と答えたけどどこに必要なのかわからない
10月5日 ～ 10月9日	窓そうじ 社会人との協働作業 (前半)	・窓そうじのスピードアップ ・高所の窓そうじでは、重いエクステンションを持って作業を続けることが出来ず社会人に助けってもらいが再び挑戦する姿が見られた ・目標を「正確さを極める」→「スピードかつ正確な作業をする」と見直し ・必要な力では、忍耐力は使うことがなかったからいらないと発言	・つらいけどもう一度挑戦してみよう	・高い窓そうじで大変だった ・社会人のDさんは平気そうですごい	・教室の窓そうじは早くできるようになっていく ・重いエクステンションを持つ力が足りない	・作業スピードが上がっているのは窓そうじが上達したからかもしれない ・長い時間は無理だけど少しなら頑張れた	
10月13日	ミーティング 窓そうじ強化週間の間総括		・スクイジー使いが上手になってきているので、さらに極めたい	・窓わくをふくの忘れていたことに気づいたから今度は忘れないようにしたい	・辛いと思っていたけど忍耐力は窓そうじには必要なかった ・思ったほどしんどくなかった	・手順を覚えて作業が早くなってきたかも ・体力がついたかも	
10月13日 ～ 10月15日	窓そうじ 社会人との協働作業 (後半)	・準備から片づけまで時間を見て社会人と作業を行う ・作業中の私語も少なく黙々と作業を続ける	・窓をきれいに仕上げたい	・作業は美しく早くが大切	・スクイジー使いが上手になっている ・きれいにしようとして時間をかかっているかもしれない	・スクイジー使いが上達しているの自分分が仕上げた窓はピカピカできている ・窓がきれいだと言ってくれる声をかけてもらえる	・作業中の私語はほとんどなくなった ・休憩なしの立ち仕事も続けられるようになってい

月日	教師の手だて・支援	C男の学習活動の様子	C男の内面(推察)			
			要求	知識	自己認識	自己効力感
11月10日	ミーティング5 ふりかえり	・ふりかえりの各項目について時間をかけて評価している		・働いて給料をもらうためには、まだまだつけないといけない力がある	・自分は目標を達成できたか	・作業月間で密そうじの力と自信がついた
		・卒業後に働いて給料をもらう生活がしたいですか？ →「そりゃ思いますよ」と即答	・働いて給料をもらう生活をした			
		・卒業後が楽しみたいになった？ ・卒業後に働いて給料をもらう生活がしたいですか？ →「そりゃ思いますよ」と即答	・卒業後は楽しい生活を送りたい			
		卒業後のために今の作業学習に前向きに取り組もうと思う？ →思う			・働くためにはもっと体力をつけないと ・作業に自信がつけられなかった ・もっとできることがあるかもしれない	・仕事に慣れてきたら自分も働くことができるかもしれない ・自分もやればできるかも
		2学期にもし工房を選べるとしたら？ →「迷いが…綿投がクッキーに帰るか…うん迷う」 →「迷うのか？」 →「最初は嫌だった。頑張っているうちにこういう気持ち(クリーン工房綿投でもよい)になった	・菓子工房に戻りたいけど、クリーン工房の仕事も続けたい ・クリーン工房で違う仕事もやってみたい	・作業の経験を重ねればいろいろな仕事ができる	・自分はクリーン工房がいやだと思っていたけど、やってみたらそんなに嫌な作業ではなかった	・クリーン工房で作業をしているとたくさんの人から声をかけてもらえる ・1学期に比べて褒められることが多かった
						・作業中の表情がとても良くなっている。 ・進んで仕事に取り組むようになっている ・まだまだ課題はたくさんあるけれど作業には前向き



#### 4. まとめ

今年度は、学校研究全体の目的を受けて高等部では作業学習モデルプランの充実、即ち校内資源に留まらず、社会との相互作用の中で実践的な作業経験を積むための作業学習の在り方について、実践を通して検討を行ってきた。その中でキャリア発達支援を日ごろの学習活動の中にどう具現化するのか、そして実践的試みを通して生徒のキャリア発達の変化とそこでの教師の役割について考察した。

##### (1) めざす姿に迫っていたか

###### ①めざす姿に迫っていたか

この2つの実践で対象とした生徒はいずれもその言動や作業中の様子から作業への向き合い方が良い意味で変わり「仕事に取り組むこと自体にやりがいを感じる」「まわりの状況に応じて、臨機応変に対応する」「共に働く生徒や社会人から学ぶ」という生徒の姿に迫ることができたと考えている。

実践Ⅰはリーダー的役割の育成を目標とした取組であった。そのための支援として OJT の活用を試みた。その中で A 男が自分の行動を振り返ると共に相手からの感想や評価を聞く機会を設定した。

A 男が後輩の生徒に仕事内容を教えていく過程の中で、当初は「素人とは一緒に仕事はしたくない」という発言が見られたが、取組を進めていくと後輩を「なかま」として認める発言や「レシートはご利用ですか？って言ったほうがいいよ。」などの後輩を育てる発言が見られるようになりリーダー的役割の自覚がでてきた。

実践Ⅱでは昨年度の課題を踏まえて、生徒に「仕事に対する意識、前向きな気持ち、卒業後の生活のイメージ、働く気持ち」などの仕事をする時のベースになる気持ちを身に着けることを目標とした取組であった。そのためには「今、何が必要で何が足りないのかを生徒自身が考えて気づくこと」が必要であると考えた。「生徒自身が考えて気づく」ための支援として「社会人との協働作業」「ミーティング」「窓拭きの自己アセスメント」を取り入れた。

C 男はミーティングにより自分はどうか、どんな生活をしたいのかを具体的にイメージする機会をもつことができた。それが作業学習に取り組む姿勢や自分の課題を考えるきっかけとなった。作業月間の設定により、集中的に繰り返し作業を行うことで経験値が上がり自信をもって行えるようになり「自分もやればできる」という発言も見られた。

実践Ⅰ、Ⅱの指導経過からは本人と関わる他者や活動（教師、社会人、生徒、販売での客、ミーティング、自己アセスメント）との相互作用が知識の修正に大きな役割を果たし、結果、行動や発言の変容につながった。加えて A 男と C 男共にこの一連の実践の中で自分に何ができて何ができないのか、自分は今何をしたいのか等、自分自身に対する知識自体（自己認識）を変えていき、それが新たな自己効力感を生み出すという良循環につながったことが考えられた<sup>(1)</sup>。

###### ②今回の実践で取り入れた生徒のキャリア発達を促すための教師の支援

###### ○教師の役割—知識の提供と問いかけ<sup>(2)</sup>

キャリア発達のための知識を提供することや問いかけをすることで生徒が自己認識の拡大や更新を積み重ねていくことができる。それが物事への向き合い方に変化をもたらしていくと期待で

きる。今回の実践ではテーマを持った定期的なミーティングが生徒のキャリア発達に威力を発揮した。

## ○自己アセスメント

自分自身を振り返ることの大切さは本校の先行研究<sup>(3)</sup>でも報告している。生徒にとっては取り組んだ課題の達成状況を振り返る中で知識や自己認識を拡大・更新する機会となる。それが次の目標へとつながっていく。教師や友だちの他者評価（他者により気づかされること）と共に（自らが気づいていくという）自己評価の視点も大切にしたい。実践Ⅰ、Ⅱ共に自己アセスメントが目標に迫るための手段として機能した。渡辺ら<sup>(4)</sup>は「将来自立的に生きるための力として、もっとも基礎的で誰にでも求められる力は、各個人が自分自身と向かい合って自分に問いかけ、自分に答える力である。」と述べている。今回の実践Ⅰ、Ⅱの中でも自分自身と向かい合って自分に問いかけ、自分に答える力が育ってきていると思われる。

### （２）活動を継続していく上で必要なこと

生徒に将来の目標を持って働く力を養い、キャリア発達を更に促すためには校内資源にとどまらず、「社会との相互作用の中で生きる」<sup>(4)</sup> 機会の提供やその中での実践的な作業経験を積むことが必要ではないかと考える。これを受けて昨年度から作業学習モデルプランの開発・充実を研究内容として取り上げてきている。

社会との相互作用の中で実践的な作業経験を積むための作業学習を継続していく上で必要なことについて以下に考察する。

#### ・地域資源の活用の意識を持ち続ける

作業学習を実施する上で校内資源に留まらず地域資源の活用や連携の意識を常に持ち続けることが必要である。意識しているからこそ、タイミングを見逃さないことにつながる。

現在、高等部が行っている地域との連携活動は社会人との協働作業、金沢大学医学図書館のカフェの運営、附属幼稚園での窓掃除、学校近辺や地域の銀行への花苗プランターの提供、業者からの委託作業である。この連携を大切にすると共に新規の連携活動にも目を向けていきたい。

#### ・双方の利益を考慮する

尾崎・菊地ら（2013）<sup>(5)</sup> は学校と地域が Win-Win の関係構築を進めることにより、学校と地域等、双方の学びやキャリア発達につながる、と述べている。

今回の本校の実践Ⅰにおいては本校生徒と大学医学図書館の双方が、そして実践Ⅱにおいては本校生徒と障害のある社会人の双方にとって成果が得られた。

#### ・自己有用感の高まりと外部評価<sup>(6)</sup> に着目する

森脇は、白河総合支援学校での地域高齢者へのサービスという活動において高齢者からのねぎらいや感謝のことばをかけてもらうことが生徒にとっての自己有用感や自己肯定感につながる、と述べている。更に、感謝などの言葉かけを得られる状況をどうつくるか、場をどのようにデザインするか、ということが大事なキャリアの視点、仕掛けである、と述べている。

外部評価が自己有用感の高まりに及ぼす効果を念頭に置きつつ実践の場を設定していくことが大切なことがわかる。

以上のような事柄を念頭に置きつつ実践を積み重ねていくことが「地域に必要とされる学校」として認められていくことにつながると考える。

今年度は昨年度の課題を踏まえてその課題を克服することを念頭において実践を行ってきた。その結果、一定の成果を得られたと考えている。今年度の成果を活かして今後も実践を積み重ねていきたい。

#### 引用文献

- (1)平成 21 年度 本校研究紀要
- (2)吉川一義（2010）「特別支援教育における ICF 活用に向けた検討の視座」  
2010.6.26 教育実践シンポジウム資料
- (3)平成 24 年度 本校研究紀要
- (4)渡辺三枝子 鹿嶋研之助 若松養亮（2010）「学校教育とキャリア教育の創造」学文社
- (5)尾崎祐三・菊地一文 監修 全国特別支援学校知的障害教育校長会 編著(2013)  
「知的障害特別支援学校のキャリア教育の手引き」ジアース教育新社
- (6)森脇 勤（2012）日本特殊教育学会第 50 回大会 自主シンポジウム 話題提供